

市を語る 1

江別市（北海道）

江別市長 三好 昇

わが

多様な地域資源を活用して オンラインワーカーのまちづくり

はじめに

江別市は、石狩平野の中央部に位置し、市街地の北東部には水量豊かな石狩川が流れ、札幌市と隣接する南西部には2000kmを超える世界有数の平地原生林「道立野幌森林公園」が広がるなど、水と緑に恵まれた自然環境豊かなまちです。

また、道央圏における中核機能都市として機能しており、札幌市へのアクセスはJRで約20分の圏内にあります。市内には北海道縦貫自動車道、国道12号線、国道275号線が通り、さらには新たな交通ネットワークとして新千歳空港と石狩湾を結ぶ国道337号線の整備が進むなど、物流拠点としても注目を集めています。

短期大学部には、約1万2800人を実現することで、地域経済の活性化を図ることができました。

この初めての取り組みは、農林水産省と経済産業省が地域経済の発展を図るために進める「農商工連携88選」として平成20年4月に選定され、全国的にその事例が紹介されました。

現在、市内約20の飲食店で和洋・中の約100種類のメニューが提供されるなど、江別小麦めんは本市を代表するブランドとして成長しました。

未来への投資

本市は、江別・野幌・大麻の3地区により市民の生活圏が形成されていますが、近年、商業、業務施設の集積が進んでいる野幌駅を

エコなまちづくり

今や地球環境の保全は世界共通のテーマであり、低炭素社会の実現は避けて通れない喫緊の課題です。

本市においては、太陽光発電システムの実証事業に参加し、市役所庁舎壁面や市内小学校に設置した太陽光パネルにより、積雪寒冷地における太陽光発電の優位性の検証を行いました。そのほか、公



市役所庁舎に設置された太陽光発電パネル



江別市長
三好 昇

プロフィール

◆面積 187.57km²
◆人口 12万522人
◆世帯数 5万3343世帯

【観光】セラミックアートセンター、旧町村農場、江別河川防災ステーション、道立野幌森林公園、千古園
【イベント】えべつやきもの市、えべつハイバル、えべつスノーフェスティバル
【将来都市像】人が輝く共生のまち
【まちの特徴】4大学2短大が立地し、各種研究機関などが集積するなど文教都市としての特性を有している。



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

人の学生と500人の教員が在籍しています。このほか、道立食品加工研究センターや道立工業試験場野幌分場、民間の北海道電力株式会社など、各種研究機関が集積しており、優秀な人材確保はもちろん、多方面にわたる研究活動が活発に行われています。

また、毎年7月上旬に行われる「えべつやきもの市」は、江別を代表するイベントとして期間中約10万人の人出でにぎわうなど、江別は「やきもののまち」というイメージが定着しています。

本市には、明治以降100有余年にわたるれんが製造の歴史があり、現在は道内唯一の生産地として全国一の生産量を誇っています。市内各所に点在する公共施設、ランドマークとしてのバス停留所や民家、倉庫などが建造物が数多く現存し、まちを訪れる人たちに本市ならではの景観と安らぎを与えてています。

このような本市固有の財産を生む江別ブランド「江別小麦めん」への取り組み

平成10年、江別産小麦の普及・振興を図る目的で、「江別麦の会」が設立されました。

同会は江別産小麦「ハルユタカ」の

かしたまちづくりへの取り組みは、広く市民に広がってきているほか、行政としても歴史的れんが建造物を保存活用するなど、市民と産学官が連携した取り組みを進めてきました。その結果、平成16年には「江別のれんが」が「北海道遺産」として認定されました。

また、毎年7月上旬に行われる「えべつやきもの市」は、江別を代表するイベントとして期間中約10万人の人出でにぎわうなど、江別は「やきもののまち」というイメージが定着しています。



江別産小麦「ハルユタカ」を原料とした「江別小麦めん」

市を語る 2

ちの
茅野市（長野県）

茅野市長 柳平千代一

わが市 自然と共にはぐくまれた郷土の文化と知恵を、未来へつなぐ

はじめに

茅野市は、長野県中部の諏訪盆地の中央に位置し、八ヶ岳の豊かな自然に抱かれた高原都市で、全市域のうち4分の3が森林で、蓼科高原、八ヶ岳などの観光地を抱えています。

この地は、古代から中世にかけては、諏訪地方の政治、経済、交通、文化の中心地として栄え、近代以降は、日本有数の観光地として発展してきました。

特に、四季の美しい変化に富んだ蓼科高原は、映画監督の故小津安二郎氏など多くの文化人に愛されてきました。深い森に囲まれた清涼澄明な環境は、毎年、全国各地から訪れる350万人もの観光客を魅了し、文化の薰り漂う高原リゾートとして発展してきました。



平成12年に中ッ原遺跡（茅野市湖東）から出土した「仮面の女神」（高さ34cm）
昭和61年に棚畠遺跡（茅野市米沢）から出土した「縄文のビーナス」（高さ27cm）

伝統をつなぐ、御柱祭

本年は、数えて7年に一度行われる諏訪大社御柱祭（式年造営御柱大祭）の年です。寅と申の年、諏訪地方は、木やりの声が響き、祭り一色に染まります。この御柱祭は、人力のみで奥山から、樅の大木を切り出し、坂を落とし、川を越え、まち中を引き、社の四隅に建てる勇壮そのものの祭りです。

この御柱祭は平安初期の桓武天皇の時代（781年～806年）に最初の記録があり、起源はさらにさかのぼるものともいわれています。今春また、多くの人々が、いにしへから今をつなぐこの祭りに参加致します。さらに、御柱祭は諏訪大社だけではなく、この地方の各地区にある神社（小宮）でも行われ、一年を通して盛り上がります。

また、本市が所蔵する「土偶」（愛称・縄文のビーナス）は、「縄文時代の精神文化を考える上で傑出した文化遺産」と評価され、平成7年、日本最古の国宝に指定されました。本市が所蔵する「土偶」（愛称・縄文のビーナス）は、「縄文時代の精神文化を考える上で傑出した文化遺産」と評価され、平成7年、日本最古の国宝に指定されました。

す。どうぞ皆さま、御柱祭にお越しいただきたいと思います。

歴史をつなぐ

本市の位置する八ヶ岳西南麓地域は、縄文中期には日本列島でも最も人口の集中した地域であったといわれています。

さらに平成12年、4000年の歴史から出土しました。国内最大級の完全な形の土偶でその素晴らしい造形美のため平成18年に国の重要文化財に指定されています。

「ひとがた」をした素焼きの土製品「土偶」の発生は、縄文時代草創期（約1万3000年前）にまでさかのぼります。出産間近の女性の姿を表すもの、伸びやかに両手を

上げるものなど多様な姿たちをする土偶は「祈りの造形」とも称され、縄文時代の人々の精神世界や信仰の在り方を表す芸術品として、世界的に高い評価を得ています。

こうした評価を受け、イギリスの大英博物館で平成21年9月10日から11月22日まで74日間にわたって、土偶展「THE POWER OF DOGU」が開催されました。縄文時代を代表する土偶などが展示され、本市からは「縄文のビーナス」と「仮面の女神」が 出展されました。

私もこの土偶展のために渡英しましたが、世界がこの2つの土偶の価値を評価していただいたこと

に対し、大変感激を致しました。なお、この2つの土偶は帰国後、東京国立博物館で開催された「国宝土偶展」（平成21年12月15日～本年2月21日）にも展示されました。

こうした評価を受け、イギリスの大英博物館で平成21年9月10日から11月22日まで74日間にわたって、土偶展「THE POWER OF DOGU」が開催されました。縄文時代を代表する土偶などが展示され、本市からは「縄文のビーナス」と「仮面の女神」が 出展されました。

私もこの土偶展のために渡英しましたが、世界がこの2つの土偶の価値を評価していただいたこと



茅野市長
柳平千代一



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

プロフィール

◆面積 265.88 km²
◆人口 5万7255人
◆世帯数 2万2565世帯

〔将来都市像〕 人も自然も元気で豊か
躍動する高原都市
〔まちの特徴〕 市の重点課題である福祉、環境、教育、国際化、情報化分野でパートナーシップのまちづくりを進めている。

〔観光〕 八ヶ岳、蓼科山、車山高原、蓼科中央高原、蓼科湖、白樺湖、奥蓼科温泉、尖石遺跡、尖石縄文考古館（国宝土偶「縄文のビーナス」）、蓼科高原芸術の森彫刻公園、マリーラーランサン美術館
〔イベント〕 御柱祭（寅年と申年に開催）、どぶろく祭り、上古田の火とぼし、八ヶ岳登山祭、八ヶ岳縄文の里マラソン、茅野市5000年尖石縄文まつり、小津安二郎記念・蓼科高原映画祭、白樺湖氷燈祭



御柱祭の上社山出し（木落し）

市を語る 5

宇城市（熊本県）

宇城市長 篠崎鐵男

わが市 文化と伝統きらめく 安心と活力あるまちづくり

はじめに

NHKドラマ「坂の上の雲」のロケ地になった「三角西港」や神秘の火「不知火」で知られる宇城市は、平成17年1月15日、三角町・不知火町・松橋町・小川町・豊野町の5町合併により誕生しました。

本市は、熊本県のほぼ中央、県都熊本市と県南の工業都市八代市のほぼ中間に位置しています。西は上天草市、東は美里町、甲佐町に接するバラエティに富んだ自然景観と都市機能を併せ持つた、バランスの取れた豊かな地域です。

市民手作りの花いっぱい運動

「宇城市フーラワーフェスタ」

平成13年度から岡岳総合運動公園で盛大に開催されています、花の祭典「宇城市フーラワーフェスタ」

は、4月で10年目を迎えます。会場は200本余りの桜が咲き乱れ、西側斜面には中高生がデザインした花文字が出迎えます。入り口には花生産者自らが作った花のアーチが、会場内には華やかなオブジェが飾られています。また、花の寄せ植え体験コーナー、ガーデニング教室や親子スケッチ大会などが開催され、多くの人が参加体験され楽しめています。さら

に、会場内では、本市の花々を特価で販売するほか、特産品や、新鮮な農産物、加工品などの展示販売を行っています。

花のまちづくり運動を進める中、市内各地域には185の管理花壇ができ、地域で管理を行い、その数は毎年増え続けております。

今後も「花いっぱい運動」は、市民による、市民手作りの花の祭典

「宇城市フーラワーフェスタ」として、訪れる方々に心に残る楽しさと感動を与えるものと思います。

「三角西港」を世界遺産に！

平成21年1月に、三角西港を含む「九州・山口の近代化産業遺産群」がユネスコの世界遺産暫定リストに記載されました。現在、明治期の建造物調査、文献などの調査を行い、世界遺産登録に向けて準備を行っています。

三角西港は、明治20年（1887年）に開港し、宮城県の野蒜港、福井県の三国港と共に国の直轄として建設された明治3大築港の一つです。オランダ人水理工師ムールの指導の下で建設された近代的な港湾であり、明治22年には国特別輸出港に指定され、石炭、米、麦などを中心に海外へ輸出されま

すのは日本でここだけです。

最近は、ドラマや映画の撮影も頻繁に行われ、明治の面影が残る場所として高く評価されています。

三角西港では、ボランティアガードによる案内や、小泉八雲が愛した「浦島屋」での喫茶、明治の海運倉庫を利用したレストランなど、

現在も築港当時の姿をとどめており、明治の港が完全な形で現存します。

プロフィール

◆面積 188.56km²

◆人口 6万3282人

◆世帯数 2万2396世帯

手作り寸劇

（パートナーフェスティバル）

本市は、男女共同参画社会づくりに向けた取り組みが盛んです。平成19年3月に男女共同参画計画を策定、10月に男女共同参画推進条例を施行し、11月は男女共同参画都市を宣言しました。

その活動の中心的役割を担つたのが、市民公募による男女共同参画推進懇話会です。20年度からは男女共同参画社会推進委員会と名称を変え、さらなる活動を開いています。定例会をはじめ、啓発イベント「パートナーシップ・



明治の面影が残る三角西港埠頭

平成20年2月、古くから神秘の火として語り伝えられた「不知火（不知火現象）」が「不知火及び水島」の保存

角西港に隣接する場所に、浮桟橋を建設する準備を進めており、完成すると三角西港を海から眺められ、天草のイルカウォッチングなどへのクルージングが楽しめるようになります。

築港120余年を経て、再び脚光を浴びてきた三角西港を、市民の皆さまと共に世界遺産登録を目指し、世界の宝として後世に残していきたいと考えています。

国指定名勝

平成20年2月、古くから神秘の火として語り伝えられた「不知火（不知火現象）」が「不知火及び水島」の保存

角西港に隣接する場所に、浮桟橋を建設する準備を進めており、完成すると三角西港を海から眺められ、天草のイルカウォッチングなどへのクルージングが楽しめるようになります。

築港120余年を経て、再び脚光を浴びてきた三角西港を、市民の皆さまと共に世界遺産登録を目指し、世界の宝として後世に残していきたいと考えています。

「不知火及び水島」の保存

平成20年2月、古くから神秘の火として語り伝えられた「不知火（不知火現象）」が「不知火及び水島」の保存

角西港に隣接する場所に、浮桟橋を建設する準備を進めており、完成すると三角西港を海から眺められ、天草のイルカウォッチングなどへのクルージングが楽しめるようになります。

築港120余年を経て、再び脚光を浴びてきた三角西港を、市民の皆さまと共に世界遺産登録を目指し、世界の宝として後世に残していきたいと考えています。

国指定名勝

平成20年2月、古くから神秘の火として語り伝えられた「不知火（不知火現象）」が「不知火及び水島」の保存

角西港に隣接する場所に、浮桟橋を建設する準備を進めており、完成すると三角西港を海から眺められ、天草のイルカウォッチングなどへのクルージングが楽しめるようになります。

築港120余年を経て、再び脚光を浴びてきた三角西港を、市民の皆さまと共に世界遺産登録を目指し、世界の宝として後世に残していきたいと考えています。

「不知火及び水島」の保存

平成20年2月、古くから神秘の火として語り伝えられた「不知火（不知火現象）」が「不知火及び水島」の保存

角西港に隣接する場所に、浮桟橋を建設する準備を進めており、完成すると三角西港を海から眺められ、天草のイルカウォッチングなどへのクルージングが楽しめるようになります。

築港120余年を経て、再び脚光を浴びてきた三角西港を、市民の皆さまと共に世界遺産登録を目指し、世界の宝として後世に残していきたいと考えています。

国指定名勝

平成20年2月、古くから神秘の火として語り伝えられた「不知火（不知火現象）」が「不知火及び水島」の保存

角西港に隣接する場所に、浮桟橋を建設する準備を進めており、完成すると三角西港を海から眺められ、天草のイルカウォッチングなどへのクルージングが楽しめるようになります。